

会派代表質問通告書

令和6年 2月 22日

高島市議会議長 廣本 昌久 様

会 派 名 (高島湖曜会)

高島市議会議員 1番 今城 克啓

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- 質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- 質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発 言 事 項	観光を活かしたまちづくりについて
要 旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	
<p>琵琶湖の水源域を構成する高島市は、美しい水や景観および豊かな森林など、自然環境や自然資源に恵まれた美しい地域です。そして、それらは歴史や生活文化および地場産業などを育み、持続可能な豊かな暮らしを生み出してきました。</p> <p>全国に誇るこのような魅力を活かして人々を引きつけるために、市では様々な施策が進められてきましたが、新たな施策も含めてさらに進めなければなりません。人が訪れる目的は観光や仕事および移住など様々であり、どの目的も重要ですが、その中でも観光は高島市を支える産業であり、まちづくりや地域の活性化に大きな影響を及ぼします。</p> <p>このたび高島市は「たかしま観光ビジョン」(案)をまとめられ、ビジョンの実現が期待されるところです。</p> <p>これらの背景を踏まえて、観光を活かしたまちづくりについて7点の質問をさせていただきます。</p>	

1. 観光地としてのハード整備について

持続的に観光客にお越しいただき、快適な受け入れを続けるためには、観光施設や街並みなどについてのハード整備は欠かせません。

民間資金のみで観光地としてのハード整備を実施することは大変困難であり、持続的なハード整備のためには行政による支援が必要です。

令和6年度末に合併特例事業債の期限を迎えるなど市の財政状況が今後厳しくなる中ではありますが、国や県のあらゆる支援策や有利な起債を最大限活用するなどによって観光地としてのハード整備を市が推進する必要があると考えますが、市の所見を伺います。

2. JR湖西線各駅の観光地の玄関口としての機能強化について

高島市全体に観光スポットが点在するため、JR湖西線の市内の駅それぞれが観光地の玄関口としての役割を担っています。

外国人観光客が増加傾向にある状況や、湖西線の利用促進の面からも、駅からの二次交通システムの整備も含めたJR湖西線各駅の観光地の玄関口としての機能強化が必要であると考えます。

二次交通システムの整備も含めたJR湖西線各駅の観光地の玄関口としての機能強化についてはどのように進めていかれるのか伺います。

3. JR近江今津駅周辺整備と特急サンダーバードの停車について

JR湖西線の市内の駅それぞれが観光地の玄関口としての役割を担う必要がありますが、その中でも近江今津駅は特急サンダーバードが停車するとともに今津港とも近接しているなど広域的なアクセスの要となっています。

今年度より市は、JR近江今津駅のコンコースや待合室の改修およびコワーキングスペースの整備やデジタルサイネージの設置を行う近江今津駅リニューアル事業を実施される予定となっています。

当事業を含めたあらゆる取り組みによって、近江今津駅について観光地の玄関口としての県内での位置付けをもっと高めるとともに、観光地の玄関口として駅周辺の整備を進める必要があると考えます。

南沼市有地を含めたJR近江今津駅周辺について、観光地の玄関口として

の付加価値を高めるための整備についてはどのようにお考えか伺います。

また、このような取り組みとともに、北陸新幹線敦賀延伸の開業後はJR近江今津駅にすべての特急サンダーバードが停車するように、県と連携しながらJR西日本に働きかけてはいかがかあわせて伺います。

4. 国道161号の整備促進について

観光を活かしたまちづくりを進めるにあたって、渋滞の発生は、観光客の訪問にとっての支障となるだけではなく、住民の方々にとって深刻な観光公害につながります。

恒常化している国道161号の渋滞解消にとって小松拡幅と安曇川地区交差点立体化は大変重要であり、早急に完成させるために市としてはどのように対応していかれるのか伺います。

5. 人材の確保と育成について

「たかしま観光ビジョン」を進めるにあたっては、観光客を受け入れる体制づくりだけではなく、当ビジョン案に記載されている様々な仕組みづくりやまちづくりを進めるための体制も必要です。

そのためには、当ビジョン案に位置付けられている観光DXに関わる取り組みをリードできる人材や観光ガイドだけではなく、当ビジョン案に記載されているあらゆる取り組みをコーディネートしたり営業を行ったりするための人材の確保と育成が必要です。

「たかしま観光ビジョン」を進めるための人材の確保と育成についてはどのようにお考えか伺います。

6. 地域DMOの設立について

観光客を受け入れる環境の整備を始めとして、「たかしま観光ビジョン」に関する様々な取り組みを進めるための体制を強化するためには、当ビジョン案に記載されているように、地域DMOつまり単一の市町村内で組織構成され、観光地域づくりを推進する法人の設立が効果的であると考えます。

地域DMOの設立については、どのようなスケジュールでどのように進め

ていかれるのか伺います。

7. 観光資源の保全について

「たかしま観光ビジョン」（案）では、「自然・景観などの保全を行い持続可能な観光を推進していくために、市民のシビックプライドを高めるとともに、観光振興への関心と理解を深める取り組みを推進します。」とあります。また、市民の役割として「本市の魅力を再認識し、地域を誇りに思い、資源を保全します。」と記載されています。

市民の方々によるこのような取り組みは重要ですが、観光資源の保全を行うにあたっての市の役割が当ビジョン案では明確に位置付けられていません。

自然環境や景観の保全については、行政が主体的に取り組みながら市民の方々の協力を得ることによって実現するものと考えます。

また、自然環境や景観だけではなく、文化財についても、保全には行政が深く関わる必要があると考えます。

ついては、自然環境や景観および文化財など市内の観光資源の保全について、市はどのような役割を果たすべきか伺います。